

軍師には眞田左衛門尉海野幸村、倅大助幸昌、四天王の銘々には木村長門守重成、長曾我部宮内少輔素元親、薄田隼人兼相、後藤又兵衛基次、七手組番頭には伊東丹後守長實、青木民部少輔一重、早水甲斐守時雪、野々村伊豫守雅春、堀田圖書之助勝嘉、中嶋式部少輔氏種、貞野豊後守頼包、何れも持口くを心配つたりしが今や遅しと相待つ處へ關東方の惣勢五萬三千五百有餘人、辰の一天より城中目掛けて押寄せたり、中にも先手の大將その日の扮装見てあれば黒革緘の大鎧には白檀磨きの籠手鷹當、鹿の角の前立打つたる五枚鍔の兜を猪首に着なし、駒はなにしおふ荒鹿毛と名附けたる名馬には金覆輪の鞍を掛け、悠然がつしと打跨り駒の頭には三十八貫目三十八粒打つたる金采棒を軽々と提掣げ、黒白二段の手綱を搔繰

「オイ喜いやん講釋を聞いてんと肝心の仕事をしんか」

「そうや、それ忘れてんね」

唐辛の粉を火鉢へ燻べますと其の煙が鼻の先へモヤくと來ましたので不堪ん、講釋師こそ暗劔殺に向ふた様なもので、

「ハアクシヤン、ハアークシヤン、これはお客さん誠に失敬を致しました。拙者も轉寢を致して風を引いたと相見へます、もう大丈夫で、エヘン黒革緘の大鎧には白檀磨きの籠手鷹當、鹿の角の前立打つたる五枚鍔の兜を猪首に着なし、駒はなにしおふ荒鹿毛と名附けたる名馬には金覆輪の鞍を掛

け、悠然がつしと打跨り、駒の頭には三十八貫目三十八粒打つたる金采棒を軽々と提掣げ、黒白二段の手綱を搔繰り恰も砂煙を蹴立て、城中目掛けて、ハイヨ……とうくと、と、と、ハアクシヤン、ハアークシヤン、これは屢々失敬を致しました。此頃の風は引くと癒り惡ふてヒツコい、皆様方も御要心遊ばせ」

宜い加減な事を云ふて是れから噓が出るとテレカクシをする顔が段々面白なつて呉る。

「ハイヨウ——とうくとと押寄せたりしが大手の門前に突立ち上り、天地も破るゝ大音聲、ヤアく遠からん物は音にも聞け、近くば寄つて目にも見よ、吾こそは駿遠參三ヶ國に於て左る者ありと知られたる、ハアクシヤン、ハアークシヤン、本田平八郎鬼忠勝が一子同名忠知とは吾が事なり吾と思はん者あらば出で來つて功名手柄を現はせよと、ハアクシヤン、ハアークシヤン、高ん高んに呼はつたり、此際城中にては、ヤア憎くき敵の擧動かな、ハアクシヤン、いで息の根を止めて呉れんと、ハアクシヤン、ハアクシヤン、大手の門を、ハアクシヤン、八文字に押開き、ハアクシヤン、なぜ今夜は此様に噓が出るのか知らんクシヤン、これでわ薩張り講釋が形なしぢや、クシヤン、お客さん誠に相濟みませんが半札と思ひますが、全札を差上げますで今晚の處は御許を頼みます、ハアクシヤン」

皆は氣の毒なと云ふのでそろく歸ります。